

開会挨拶

富山県知事 石井 隆一



皆さん、こんにちは。

一昨年から始めまして、今年が3回目の国際砂防フォーラムとなりました。このフォーラムには、日本イコモスの西村委員長、スイス環境庁のゲッツ次官をはじめ、多くの有識者の皆さん。また、県議会の坂田議長、横山副議長など、本当に多くのご来賓や、また関係の皆さまも大変たくさんご参加賜り、誠にありがとうございます。

さらに、南砂防部長さんをはじめ、北陸地方整備局長の前川局長、国土交通省の皆様、高木北陸銀行頭取、立山ゆめクラブの皆さん、実行委員会の方々など、本当に多くの方々のおかげでこのフォーラムを開催できますことを心から感謝を申し上げます。

皆様、ご承知のとおり、富山県は、3,000メートル級の立山連峰、水深1,000メートルの富山湾、これを直径40～50キロの富山平野がつなぐ、大変ダイナミックな地形です。また、記録がある限りでは、立山は、雪の量も含めて、世界で一番雨が多いということで、かねてから急流河川も多く、昔から、治水、砂防が、本当に大事な仕事であり、富山県の歴史は、まさに水との戦いと言われています。

特に、150年余り前の安政5年に飛越大地震があり、立山カルデラに2億立方mの土砂が溜まってから、大雨のたびに下流の住民の皆さんの安全安心が損なわれ、現に何百人も亡くなったこともあります。そこで今から100年ほど前の明治39年に、これを何とかしなければということで、立山砂防事業を始めました。最初の20年間は、県営で、県の予算の半分ぐらいを使って取り組んだのですが、とても追い付かないということで、その後の80数年間は、国の直轄事業として、今日まで来たわけです。

おかげでずいぶん富山平野も安全になってきましたが、この間にできた様々な砂防施設群は、文化的な価値があるのではないかと、いうふうに思い働き掛けましたところ、2年ほど前に白岩砂防堰堤を、日本の砂防施設として初めて、国の重要文化財に指定していただきました。併せて、何とかこれを世界文化遺産にしたいということで、文化庁や様々な有識者の皆さんにも働き掛けたのですが、その時点での最終的な審査では、立山砂防のさまざまな施設や事業は、本当に素晴らしいものであるが、まだまだ国際的な評価が確立していない。しっかりと立山砂防の技術や施設、事業の特色、意義を世界の皆さんにもっとアピールして、また世界の専門家に評価していただいて、その評価が定まった上で、あらためて手を挙げてもらいたいということでした。

以来、今年で3年目、この国際砂防フォーラムを行ってきたわけであります。昨年は、元ユネスコの事務局長であった松浦先生が、このフォーラムの講演をな

さって、砂防で世界文化遺産に手を挙げるというのは、なかなか着眼点がいい、筋がいいと言われました。これは、私が、2年前にフランスのユネスコ本部にお尋ねしたときも、そういうふうにおっしゃっていたのですが、あらためて大変力強いお言葉もいただきました。

今日は、この後、日本イコモス国内委員会の西村委員長さんから、まず、特別講演をいただいて、その後、スイスの環境庁のゲッツ次官や、土木研究所のアディカリ研究員、JICAの大井さん、そして、コーディネーターとして立山砂防女性サロンの会の吉友さんをお願いして、講演やディスカッションがおこなわれるということでもあります。皆さん、お忙しい方々ばかりだと思いますが、ぜひ、お時間の許す限り、ご静聴を賜りまして、立山砂防の意義、これをぜひ世界文化遺産になるように、それぞれのお立場で今後ともご支援を賜ればありがたいと思っております。

最後に、今日のフォーラムの成功と、ご参会の皆さん、お一人お一人の今後ますますのご健勝、ご発展もお祈りいたしまして、開会のごあいさつとさせていただきます。